

<気をつけよう！夏にはやる病気>



流行性角結膜炎

原因

目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、タオルの共有や手指の接触によって感染する。最近は季節に関係なく発症する傾向がある。

症状

まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにて目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うこともある。

対応

完治まで2～3週間かかり、結膜炎の症状が消失してからの登園になります。医師の意見書が必要です。

ヘルパンギーナ

原因

コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症。

症状

高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ほうや潰瘍（かいよう）ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクが飲めなくなるほどに。

対応

熱やのどの痛みがあるうちは、安静に過ごすように。保護者の書いた登園届が必要です。



咽頭結膜熱（プール熱）

原因

アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。

症状

39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。

対応

症状がなくなってから2日経過したら登園可能。意見書が必要です。自宅で安静に過ごしましょう。



手足口病

原因

コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染。

症状

手のひらや足の裏、口の中に小さな水ほうや赤い発しんができ、熱が出ることも。

対応

まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やお吐を伴う発熱が3日以上続くときは、すぐに受診を。登園届が必要です。



とびひ

原因

虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌が感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。皮膚が弱いとかかりやすい。

症状

皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することもある。

対応

主な治療法は抗生物質の使用だが、衣服を清潔に保つこともたいせつ。患部をガーゼなどで覆って登園するように。また、患部がじくじくしているときは症状が悪化しやすいので、プールは避ける。

水いぼ

原因

ポックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する。

症状

粟粒大のいぼが胸や腹、わきの下などでできて広がる。

対応

完治まで半年から1年半程度かかる。自覚症状がなければ治療は不要。肌のバリア機能が低下しているときや、かゆくてかきこわしてしまうようなら、医師と相談のうえ、いぼを取ったり、薬による治療を行うことも。

